

## 令和4年度「データ・AIと社会」の自己点検・評価について

## ① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全学部生に受講機会を提供するため、全学共通の「共通教育科目」として「データ・AIと社会」を開講している。令和4年度は春学期、秋学期ともに開講し、文系・理系によらず、すべての学部から春学期は506名、秋学期は1,203名の履修があり、特に秋学期は1年次生が67.5%を占めた。春学期・秋学期を合算すると、当該科目を1,709名が履修し、令和3年度からの累積で2,719名と、順調に履修者が増加している。</p> <p>授業アンケートによると、当該科目の履修理由は「授業内容に興味があった」が最も高く、学生の関心と学習意欲の喚起は適切であった。また、本科目の特徴を反映して「オンデマンド型授業のため」が2番目に高かった。</p> <p>修得状況については、春学期、秋学期ともに全体の80%以上の学生が、全15回の小テストを経て単位修得に至っており、リテラシーレベルとして適切である。</p>
学修成果	<p>本科目は、データの数理的な扱いの基礎の修得や、データの収集法、AIの基本的な仕組み、社会におけるデータ・AI活用例、法律的・倫理的な問題点、人間社会・職業への影響、その予想される将来など、学生が幅広く関心をもって学習できる内容としている。この学修成果について、全15回の各授業で小テストを実施した結果、春学期、秋学期の各回とも概ね60%以上の学生が20点満点中17点以上の点数となっているが、数理色が強い授業回では若干低い。この点については、今後の実施結果も踏まえ、必要に応じて改善する。</p>

<p>学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度</p>	<p>本科目で設定する4つの「身に付く力」について授業アンケートを実施したところ、「とても身に付いた」「身に付いた」と回答した学生の割合は以下のとおりであった。</p> <p>①データ・AIの利活用に関する幅広い知識：(94.2%)  ②データを読み、扱い、説明するための数理的な基礎能力：(82.7%)  ③基本的なAI技術の理解力：(93.5%)  ④データ・AIに関する倫理的、法的、社会的な問題点の理解力：(91.5%)</p> <p>また、不明点等を解消する手段を問う設問では、「不明点は一切なかった」と回答した学生の割合は78.1%であった。受講者の約80%が単位修得に至っていることや、学生の学習実感から、学生の理解度は適切な水準にある。</p>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>授業アンケートにおいて、後輩学生への受講推奨を質問したところ、82.4%が「強くそう思う」「そう思う」と回答している。数理化が強い授業回があることから、文系学部の学生における推奨度が若干低いものの、開講初年度の77.9%を上回る結果となった。今後、学生からの声を検証し、さらに推奨度が高まるよう、改善していく。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本科目はオンデマンド型としており、授業の質を確保しながら、秋学期は受講を希望した1,203名全員を受け入れることが可能であった。</p> <p>今後も多くの学生に受講機会を提供するため、令和4年度と同様に、前期・後期において同一の内容で開講する。</p>
<p>学外からの視点</p>	

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

進路、活躍状況については、学生の進路を主管する「進路・就職支援センター」と連携し、今後、本科目の修了者の就職先や業務状況、就職先からの評価等の把握を進める。また、IR推進室において実施している「就職先調査」において、過去3年以内に本学卒業生の採用実績のある企業に調査したところ、企業等で求められる資質・能力について「AI・データサイエンスの知識・理解」の項目があり、「少し求められている」「求められている」「かなり求められている」の割合が75.6%と、企業側は高い水準で求めていることが分かった。  
同調査における本学の卒業生が身に付けている資質・能力において、「AI・データサイエンスの知識・理解」の項目は、「少し身に付いている」「身に付いている」「かなり身に付いている」の割合が55.3%と、半数以上から身に付いている評価を得た。今後、本プログラムの修了者を増加させ、卒業生に占める本プログラムの修了者の割合を増やすことで、企業側から本学の卒業生が「AI・データサイエンスの知識・理解」が高水準で身に付けていると評価してもらえるよう取組を推進したい。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本科目を社会の実情にあった内容としていくためには、産業界との対話も必要である。本科目の意義や実施状況を踏まえた意見を聴取するための方法等について、今後の課題とする。

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>リテラシーレベルのモデルカリキュラム(導入・基礎・心得)に準じた内容としながらも、全学部の学生が関心をもって学習できるように、7学部16名の教員により、「AIと視覚・自然言語」「AIの軍事利用」「クチコミ分析」など、数理・データサイエンス・AIに直結するテーマだけでなく、それにまつわる社会的側面についても幅広く触れる内容としている。授業アンケートによると、こういった社会的なテーマを取り上げた授業回が印象に残ったとの声が多数見受けられる。また、この科目の受講を契機に、さらに実践的な内容を学習したいとの学生からの意見もあり、本科目が、学生の学ぶ意欲の喚起につながっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>令和4年度のすべての授業が終了した後、初年次教育センターにおいて初年次教育センター運営委員会を開催し、履修者の状況や小テストの実施状況、授業アンケート及び各授業回での学生からの問い合わせ状況を踏まえ、授業の検証を行った。本科目はオンデマンド型科目であり、学生は、教員が丁寧に作成したLMS上の講義動画、資料・課題にしたがって、各自のペースで学習を進めたが、その理解度は高く、また、質問は操作に関するものはほぼ無く、適切な水準であった。なお、令和5年度は学生からの意見を踏まえ、小テストや質問の受付、レジュメ等の資料公開について、改善し実施する。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

[https://www.kyoto-su.ac.jp/features/kyotsu/sy\\_ai.html](https://www.kyoto-su.ac.jp/features/kyotsu/sy_ai.html)